

「ISCIH 及び NSCIH 研究会」報告 議事次第
2025年12月20日(土) 13:30~16:00
文化財保存計画協会(東京都千代田区)内会議室/Zoom

- 0. 主旨説明 (伊東孝)
- 1. 報告
 - 1) ISCIHの発足と、「第12小員会」のNSCIHへの移行 (伊東)
 - 2) IH国際会議の経緯 (松浦利隆)
 - ① 2022 TICCIH2022 Montreal報告
 - ② 2023 ICOMOS GA2023 Sydney報告「TICCIH会員の集い」
 - ③ 2024 ICOMOSにISCIHが設置され、アイルランドのMary-Liz McCarthy氏が委員長(7月)
 - ④ 2025 TICCIH2025 Kiruna
 - 3) 世界遺産登録10周年記念 (松浦、西川三津子)
 - ① 「富岡製糸場と絹産業群」WH登録10周年記念国際シンポジウム(絹産業遺産群10周年シンポ)
 - ② 明治日本の産業革命遺産
 - 4) 第一回サウジアラビア産業遺産ワークショップへの参加 (西川)
 - 5) 保存問題 (秋葉健、市原猛志、伊東)
 - ① 高輪築堤
 - ② 門司駅遺構
 - ③ 玉川上水(渋谷区)
 - ④ 猿楽橋(渋谷区)
 - 6) 「佐渡島(さど)の金山」の世界文化遺産登録
 - 7) その他
- 2. The 19th TICCIH Congress in Kiruna:(TICCIH 50周年)の報告
..... (西川、市原、伊東)
- 3. 今後の活動など (伊東)
 - 1) IHのISC/NSCを定期的に行う(年1、2回程度)
 - 2) テーマ、議題など
 - 3) その他

研究会の要旨は、事務局が作成した AI 要旨を市原猛志氏が加筆修正、最終とりまとめを伊東がおこなった。

<要 旨>

研究会では、産業遺産に関する研究会の再開と、産業遺産関連国際会議の経緯、世界遺産登録十周年記念(富岡製糸場、明治日本の産業革命遺産)、サウジアラビア産業遺産ワークショップへの参加などについての報告があった。

研究会の冒頭、ICOMOS の産業遺産委員会(ISCIH)と日本の産業遺産委員会(NSCIH)の設立について説明され、参加者が自己紹介をおこなった。参加者は報告者5名および事務局長の矢野和之氏、ズーム参加者 14 名であった。

松浦利隆氏は、2021 年の TICCIH モントリオール会議の経緯を報告および近代化遺産総合調査の結果(38,600 件の報告)、佐渡金山の世界遺産推薦について言及した。

西川三津子氏は、「明治日本の産業革命遺産」の十周年記念活動について報告、8 県 11 市で 400 名以上が参加したシンポジウムの実施を説明した。

秋葉健氏は高輪築堤の保存問題について、明治期の鉄道施設の解体と、産業遺産に対する国民的な意識の低さを指摘、自治体と事業者との温度差についても言及した。

研究会では、産業遺産の保存と利活用に向けた啓発活動の重要性が強調された。